

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

士別市立上士別中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

- 期 日 : 平成28年9月2日 (金)
- 場 所 : 士別市立上士別中学校
- ク ラ ス : 2年生8名 ※3学年 (17名) 合同で実施
- オリンピアン : 小原 悠里 先生 (スケート・スピードスケート)
- 授業のながれ : 運動の時間 (2時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・小原先生より自己紹介し、全員でスピードスケートの競技姿勢を体験した後、ホワイトボードに掲示したオリンピックバリューについて触れ、運動の時間は、体を動かしながら、3つのバリューがどのようにつながるか考えていくと予告し、準備体操に移る。

3. 主運動



・ボールリレーを3回実施。ボールはバスケットボールまたはバレーボールの2種類から、ボールを運ぶための用具は大縄、バスタオル、フラフープから選択。ボールを運ぶ際、ボール或いはボールを運ぶための用具が床に触れていることをルールとした。

4. まとめ



・ホワイトボードに掲示したオリンピックバリューのボードを確認しながら、運動の時間を振り返り、皆で協力し、最後まで諦めずに頑張ったこと、相手に感謝する、皆の声を聞く等実践できていたことを挙げ、それぞれがオリンピックバリューと関係があることを説明し、授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（3時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ ジュラルミンケースに保管しているスケート靴を見せ、オリンピック出場時の写真を紹介しながら当時を振り返る。
- ・ 自分では努力していると思っていたが、それ以上に先輩が努力していることを目の当たりにし、日常生活から競技に取り組む姿勢や考え方を見つめ直したこと等のエピソードを通して、小原先生にとってのバリューを説明。

3. グループワーク



- ・ 自分が頑張っていることをキーワードとして挙げ、そこからその目標に向かうために何が必要かを個人で考え、各班に分かれて意見を交換。それぞれのオリンピックバリューに当てはまるかを考え、代表者が意見を発表。
- ・ 練習、継続、体力、努力（エクセレンス）、仲間、団結力（フレンドシップ）、地域の人たちや先生・コーチへ感謝、助け合い（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ グループワークで話し合ったように、オリンピックの考え方は日常生活の中に存在していることに気づけたのではないかと問いかける。人生には良いことも悪いこともあり、努力しても望んだ結果に結びつかないこともある。しかし、その過程が重要であり、結果は伴わなくともその努力は無駄ではないから、失敗を恐れずに何事にも挑戦してほしい。一歩を踏み出す勇気を持って、行動を起こすことの大切さを伝え、授業を終了。

■ 集 合 写 真



■ 記 念 品 贈 呈



■ 証 明 書 贈 呈

